

甦へる學園に 續々と復學

再建の意氣も新に

昭和十八年學徒出陣の草やかな聲に送られてベンを抱舉し、烈々の愛國心に燃え空に海に或は陸に軍の中堅として活躍して來た學徒自身の將兵は終戦となり、それも祖國敗北の悲惨な現実に打ちひしが

の廻理探求の情熱は失つて居らなかつた、彼等は讀々と復學の手帳を取り戻し、い母校の教場に姿をのらはした。しかしながら現下の社會事情は學生生活と昔の様な安易なものとはしておかか、下宿難、食糧難等の結果での生活費は極くべき上昇を來し、新

の如きに付いてある推移すれば案半ばにして退院の止むなきに至る者續出すべき状態とならう。卒業を一日も早くの聲は深刻であることに於て復員學生の有志は復員學徒進學の運動を開始した。即ち復員學徒の進學は父部當局の指令不明瞭の爲め各學校夫々任意の処置をとり、本學に於ては學生の実力不足「當

現在の大學生は過去と違ひ極くまでもその國家の意を従つてゐたので、義の重大さを自覺し自然で素直であり學生の人格。

ゐた苦衷も理解あるを尊重し、學校は學生を愛し、學生に愛され、
だが敗戦は我が國明確な尊嚴氣のものに眞理の探究に精進し、祖國
に、虚偽と陰謀策の再建に努力する様でなくてはいけないのである
實物的にか何れに だが現在の本學は倒くまでも、依然たるもので
社會の一員たる本あり実質的にはそのまゝであるといふことは案目
校の様子を觀本校の一致する處であらう學校の民主化といふいは
を信する者ありや 易にして難なり、これは學校の理解ある態度と
ならざる學生等は 學生の熱烈なる母校愛と眞摯なる態度とが相なつ
よりも極く一部の て出來るものである現在の社會現象をみると敗戦
想は旧態依然たる 徒然事中の國民に對する不自然なる禁固はその反
リズムであると言 効として民主主義と自由主義を混同し、筆このこ
とににおいても過ぎの感なきにしもあらず、だが
つゝある國家に期 これはそういう意味のものでなく現在の狀態にお
を顧ふ先輩や、我 いて當然のことであることを附記して置く、本學の
へへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへ
本學の新しい意味における新しい新しい改正の近かられ
るは止間だ、こ ことを祈りつゝ(佐藤守良)

の金字塔をたてし
は将来も良きかと

のものも近い将来のことであらう
學問部は矢野教授、講演會、時局
問題討論會、經濟古興原書講義、
備附圖書の貸出等々豊富な内容を
もつてゐる。かくて實の學究生活
を充実させ教授との直結學生相互
の切磋琢磨を図る學園先駆の進軍
は既にスタートを切つた

中櫻會研究室

会問題は矢島教授の講演會、時局問題討論會、經濟古典原書講義、備附圖書の貸出等々豊富な内容をもつてゐる。かくて眞の學究生活を充実させ教授との直結學生相互の切磋琢磨を図る學園先駆の進軍は既にスタートを切つた

中権會研究室

學問の自由が失はれて年既に久しい、自由なき所に創造はあり得ない、創造なき文化團体の一つである研究室又存在の價値はなかつた訳である、今後の本研究室の動向は法學それ自身の存在意義を求めて、それを通じて室員相互の人格陶冶^{トガイ}、高き教養人を目指して再生することにある、既に發表せる春季^{スプリング}教養講座はそのさゝやかな而り物であり座長に秘められる種々の立案又その現れに過ぎない、出の知識人諸君^{スル}の賛同を得れば幸ひ

學生の聲

圖書館の非禮

諒とし現在の二年生の復学者は三年に進學し得る事なり一、三年の学年試験は同時に終ての課目に亘つて行はれることとなつた。昨年並びに二年海軍陸閥學生、陸軍将校として入隊し今度復學した現三年も四月卒業の願ひを提出したが此は退けられ結局卒業は今年の秋となつた、社會は混沌として

する、生き残った復興學徒の使命

出来うべくは長い學校におつて勉學したいのは學生の切実なる願ひであるが、しかもかゝる

勤勞報償金如何候也

近頃圖書館における學生の態度は全く堕落のものである。着信したまゝのもの、高聲で私語を交すもの、果ては煙草を吸ふもの、圖書館なのか休憩室なのか分らないこれは勿論學生自体の責任であるが一方には又圖書委員のルーズにちよるのである。學生諸君の自覺と圖書館當局の善処方を切望してやまない(M.P.)